

足立区議会議員 鹿 浜 昭 様

足立区議会議員 13 番 くじらい 実 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいのので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行 政 区 分	質 問 の 要 旨
1 政策経営行政	I. 竹ノ塚駅高架化と駅周辺のまちづくりについて いよいよ来年、竹ノ塚駅の南北の踏切が撤去されるとともに駅が高架化され、令和3年度末には竹の塚エリアデザイン計画を策定することになっている。 この一年はエリアデザイン計画の策定に伴い、まちづくりの方向性を決める大切な時期であると強く感じている。 1.竹ノ塚エリアデザイン計画について ①エリアデザイン計画は、基本的に30年先を見据えて策定すると聞いている。竹ノ塚駅東口のUR団地は、第一から第三まで三つの団地を合わせれば面積は約19ヘクタール、戸数3,000戸の規模があり、居住者の転居を繰り返しながら建て替えをするとすると30年、あるいはそれ以上の期間を必要とするかもしれない。エリアデザイン計画を策定する上で、将来を見据えることは当然だが、現在竹の塚エリアに住んでいる地域の方々にも短期的な事業を明らかにすることも重要だと考える。短期的、中期的、長期的な取り組みをわかりやすく示すエリアデザイン計画とすべきと考えるが、区の見解を伺う。 ②URの団地再生とまちづくりとを同時に進められる駅東口と違い、駅西口のエリアには大きな変化を促すような事業は、現在のところ見当たらない。したがって、地元の意見を聴くことはもちろん、議会ともしっかり議論を交わしつつ、地に足をつけた中長期的な視点を持ってまちづくりを進めてもらいたいと考える。そこで、近い将来、活用可能な区有地として旧保健センター跡地が考えられるが、その他に活用できる候補地はあるのか。また、これらの区有地の活
	2月15日 午前・午後 9時20分受付 質問時間 30分

	13 番 くじらい 実
行政区分	質問の要旨
2 都市建設行政	用の方向性について区の考えはどうか伺う。 ③現在、足立区内では200人以上を収容できるバンケット機能を持つ施設がなく、区民事務所単位の大規模な地域の集まりや、区内にある各種団体の集まりなどを行える場所が見当たらなくなっている。現状はコロナ禍で大規模な集会は制限されてしまっているが、今後日常を取り戻し、人と人との交流が戻った時にバンケット機能を持つ施設の必要性が出てくると考えられる。現状のままだと大規模な集まりは区外で行わなければならない。旧保健センター跡地については竹ノ塚駅から直線距離にして約200mと駅に近く、また今後開通が予定されている補助第261号線と接するため利用価値が高い。バンケット機能の導入を含めて計画を進めてほしいと考えるが区の見解を伺う。 ④現在、伊興寺町には「保木間堀親水水路」が通り、地域の方々、また子どもたちにとっても憩いの場となっている。また、景観審議会が審議している「第二次足立区景観計画」においても伊興寺町周辺地区は狭間道も含め、景観重要道路に指定されている。しかし、保木間堀親水水路においては歩道ですれ違えない程の狭い箇所もあるため、水路に落ちるといった心配がある。安全対策も必要になってくると思うが、区の見解を伺う。 2.竹ノ塚駅の高架化について ①竹ノ塚駅の高架化工事は着々と進んでいる様子が竹ノ塚駅を利用する度にわかる。工事に従事されている関係者の姿をホーム上から見ると、いよいよ来年には新駅舎と上下緩行線が高架化し、東西のまちが一体となるとの実感が沸くとともに、感謝の念を強く感じている。平成28年5月の下り急行線の高架化に続き、昨年の9月26日には上りの急行線も高架化され、地域の方々からも踏切の待ち時間が短くなったと感じるという声をいただいている。そこで、事業開始前には「開かずの踏切」と言われ、朝のラッシュ時には1時間あたり58分程度、踏切が閉まっていた状況であったが、現在はどの程度遮断時間が短くなったのか、また、1日あたりの遮断時間はどの程度変化したのか伺う。 ②新型コロナウイルスの感染拡大により医療提供体制や経済活動、社

	13番くじらい実
行政区分	質問の要旨
	会活動に大きな影響が出ている。そのような中で、令和3年度末には新駅舎の供用開始、営業線全線高架化、2ヶ所の踏切除去、さらに翌年度以降、引上線の高架化や仮設ホームの撤去、周辺道路の整備などの工事を進め、令和5年度末には竹ノ塚駅付近の鉄道立体高架化事業も完了を迎える計画である。かなり緻密な計画であるが、感染拡大による工事工程の遅延など影響は出ていないのか。また、工事現場では今後もどのように感染拡大防止対策を実行していくのか、区の見解を伺う。 3.竹ノ塚駅周辺の道路整備状況について ①竹ノ塚駅の西口に位置する区画街路第14号線の駅前広場部分は鉄道の高架化後に整備を行うと聞いている。そうすると駅前広場につながる区画街路第14号線の街路部分と補助第261号線の工事の進み具合が駅の利用者にとって大きく影響してくる。現在、区画街路第14号線の街路部分については目に見える形で道路整備が進んでいるが、進捗状況はどうか。また、今後どのように整備していくのか伺う。 ②区画街路第14号線に接続する補助第261号線については西口駅前広場が完成した後のバス路線にも大きく関わってくると同時に、今後のまちづくりに向けては大変重要な路線である。竹ノ塚駅から前沼交差点までの路線の開通によってはじめて西口駅前広場のターミナルとしての利用価値が上がるため、一刻も早い道路整備が必要だと考えるが、現在の進捗状況はどうか。また、事業完了への計画はどうなっているか伺う。 ③補助第261号線でも舎人公園から伊興小学校までを結ぶ、計画延長1,040mの古千谷地区は一部歩道の未整備部分を除き完成間近と思われるが、未だ車道は一部使用出来ず渋滞が起きるケースもある。古千谷地区路線の現在の用地取得率について伺う。また、用地取得も含めた古千谷地区路線の事業完了に向けた取り組みについて伺う。 ④現在の赤山街道については、バス通りであり、乗用車とともに多くの自転車・歩行者が通行するため、舎人・古千谷から伊興の地域にかけての交通の要として重要な路線である。そして竹ノ塚駅の高架

	13 番 くじらい 実
行政区分	質問の要旨
	化後は駅の東西を繋ぐ路線として今後も益々重要性は高まってくると考える。現在、赤山街道2,300mにわたり設置されている街路灯は設置されてから約30年が経ち、耐用年数から考えると更新時期が迫っている。また、使用しているのは水銀灯であり、省エネの観点からもLED化を進めるべきである。新しい竹ノ塚駅のイメージに合わせた近未来的なデザインの街路灯への更新を進めるべきだと考えるが、区の見解を伺う。 ⑤また赤山街道の一部には、以前噴水などで水が流れていた水路が歩道内に設置してある。現在は水も止まり、花が置いてあるという状態であるが、設置個所は歩道の幅が狭められている。駅の高架化により東西の道路がつながることも契機とし、自転車また歩行者の安全な通行のためにも水路について安全対策を進めるべきだと考えるが、区の見解を伺う。 4.竹ノ塚駅周辺の高架下利用について ①区は地元地域の方や駅利用者の意見を聴くために、平成30年度に高架下の利用についてオープンハウス形式また郵送形式で1,081名からのアンケート調査を行っている。既に調査結果については報告を受けていると思うが、改めて高架下利用の意見はどのようなものであったか伺う。また、アンケートでの意見は今後どのように反映していくのか、区の見解を伺う。 ②駅が高架化されれば、次に区民の皆さんが期待するのはまちづくりと共に高架下の利用方法だと考える。高架下の利用に関する工事の時期や実際に区民が利用できるのはいつ頃になるのか、区の見解を伺う。 ③高架下と区画街路第14号線との間にスペースが出来ている。このスペースは区の所有になるのか。また高架下と連携して有効活用するべきだと考えるが区の見解を伺う。 Ⅱ. 未来に向けた環境政策について 昨年10月に菅内閣総理大臣は2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した。国においては経済産業省を中

	13番くじらい実
行政区分	質問の要旨
3 環境行政	心に「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」として14の重要分野ごとに高い目標を掲げ、現状の課題と今後の取り組みを明記し、あらゆる政策を盛り込んだ実行計画を策定している。そして2050年脱炭素社会の実現に向けても、今出来る事から一つ一つ取り組んでいく必要があると考える。 1.2050年に向けた取り組みについて ①東京都では一昨年12月に環境対策として「ゼロエミッション東京戦略」が策定された。2050年を目標として重点的に6分野14政策に取り組み、地球環境に優しく快適な街を構築し、気候変動による災害に負けない強い都市を目指している。世界規模から身近な所まで環境対策への意識が高まっている中で、区においては平成20年に「環境サミットイン足立」の宣言文を出している。また、本議会においては2050年にCO₂排出ゼロを目指す議会との共同宣言について提案をされている。この共同宣言に基づいて、区としては今後どう取り組んでいくのか。区の見解を伺う。 2.再生可能エネルギーの活用について ①再生可能エネルギーを活用した発電方法には、太陽光発電・水力発電・風力発電等がある。比較的平坦で高低差がなく、また海岸から遠く海風も受けにくい足立区にとっては水力発電や風力発電は不利な部分ではあるが、極端に高い建物が少なく満遍なく日光の当たりやすい太陽光発電は区にとっても最も効率的な再生可能エネルギーだと考える。区において太陽光発電の設置件数はどのくらいか。またそれに伴う発電量はどうか。他区と比較して足立区はどの位置にいるのか伺う。 ②2050年脱炭素社会を目指して区としては太陽光発電を増やしていくべきだと考える。設置費用は高額なため区としても設置に対しさらなる促進策をすべきだと考えるが、区の見解を伺う。 3.自動車CO₂の削減について ①東京都では2030年までに新車販売をハイブリッド車（HV）や電気自動車（EV）など電動車の割合100%を目指して政策を打ち出して

	13 番 くじらい 実
行政区分	質 問 の 要 旨
	いるが、CO₂排出量を減らすためにも今後の電気自動車の増加は歓迎すべきことだと考える。現在、公用車として区で保有している電気自動車は何台か。また区内における電気自動車の普及割合としてはどのくらいになるのか。今後は区内においても電気自動車を増やしていくべきだと考えるが区の見解を伺う。 ②電気自動車の活用には、EV用急速充電器の設置の拡充によるインフラ整備が必要となる。東京都は2021年度から設置規制を緩和するほか、誰もが利用できる充電設備を設置した際の電気基本料の補助も始める。区内におけるEV用急速充電器の設置補助や設置計画を立てるべきだと考えるが、区の見解を伺う。 ③昨今、電気自動車と並んで注目されている水素自動車だが、燃料が満タン状態での走行距離が電気自動車に比べて長く、2050年脱炭素社会に向けてガソリン車から水素自動車への移行はダイナミックに行われるのではないかと考える。水素自動車の促進策としての補助制度は区内でどのくらい活用されているのか。また、今後公用車として区も水素自動車の導入を考えるべきだが、区の見解を伺う。 ④現在は水素ステーションの数が少なく水素自動車の普及に向けてはインフラ整備に課題が多いと考える。しかし東京都は水素ステーション設備等導入促進事業として既存ガソリンスタンドの水素ステーション併設・転換に対する補助を実施することになっている。今後は水素ステーションのインフラ整備が必要不可欠になるが、区内における水素ステーションの計画はどうなっているのか。中長期的な計画を立てるべきだと考えるが、区の見解を伺う。 4.資源循環型社会への取り組みについて ①昨年11月に我が党の一期生3人でごみ収集作業の実務体験をした。当初は春頃に予定していたが、コロナ禍で2度延期になり3度目の正直でやっと実現した。不慣れな部分も多々あったが、日常ごみ収集をして頂いている清掃員の皆様の有難さを改めて実感した。そして、コロナ禍でも休むことなく作業をするエッセンシャルワーカーに感謝をしたい。まず、コロナ禍での家庭ごみの量はどうか。

	13番 くじらい 実
行政区分	質問の要旨
	②実際にごみ収集作業をすると、清掃車両にごみを積み込み、圧縮板が回転した際にごみ袋が破裂しごみが舞ってしまうケースも見受けられた。また、使用済みのマスクが落ちている場合も拾って清掃車両に入れなければならない。コロナ禍で作業中の感染も心配される中、区としてもエッセンシャルワーカーを感染から守る必要があると考えるが、清掃員に対してどのような対策をしているのか伺う。 ③足立区は現在プラスチックごみの分別をせず、燃やすごみとして回収、サーマルリサイクルとして熱回収による発電に回している。しかし現在、他区の状況を見ると23区中12区がプラスチックごみの分別回収をし、リサイクルとして活用している。足立区がプラスチックごみの分別回収をしていないのはなぜか。 ④東京都では令和元年に「プラスチック削減プログラム」を策定。廃プラスチックの焼却量40%削減、区市町村と連携した分別とリサイクルの促進強化を目指す。都の補助事業である再資源化支援事業のスタートアップ支援を活用し、今後はさらに高度なリサイクルを目指し区としてもプラスチックごみの分別回収を行うべきだと考えるが、区の見解を伺う。 ⑤プラスチックごみの分別回収を行うにあたり、現在の収集体制から変更することになると想定される。その際には区民への周知を丁寧に行うべきだと考えるが、区の見解を伺う。 ⑥エコバッグについて足立区では、ベジタベライフ協力店の八百屋へ、また不法投棄通報協力員への啓発物品としてなど区民へ様々な形で配布していた。環境省によるとレジ袋の受け取りを辞退する人の割合が昨年3月の30.4%から昨年11月末には71.9%へと増加したと発表している。今後区としてもエコバッグの普及を図っていくべきだと考えるが見解を伺う。 ⑦カロリーベース総合食料自給率が38%の我が国にとって、食品ロス対策は今すぐにでも取り組むべき喫緊の課題だと考える。食品ロス対策を打ち出すための目標とする数値を設定するにあたり、現状を把握するための基礎となる数値がまず必要となってくるが、どのように現状の推計数値また今後の目標数値を設定していくのか、区の

	13 番 くじらい 実
行政区分	質問の要旨
	見解を伺う。 ⑧食品ロス対策への目標数値を設定した上で、今後は具体的に解決に向けての取り組みが必要だと考えるが、区としてはどう食品ロス対策を推進していくのか、区の見解を伺う。 5.緑の保全・活用について ①CO₂吸収の観点からは緑の活用また保全も必要だと考える。森林環境譲与税については区への割り当て額の増加が年々見込まれる。区内での活用としては主に木材としての利用であるが、他にも幅広く有効活用すべきだと考えるが区の見解を伺う。 ②森林環境譲与税の使い道については、魚沼市にカーボン・オフセットを通じCO₂吸収量を増やす森林整備に活用してもらうなど、友好自治体への利用増が考えられる。そんな中で、一昨年の台風19号の際には、足立区より上流にある調整池が足立区における荒川の氾濫を防ぐ役割の一端を担ってくれた。森林環境譲与税については、友好自治体への使用はもちろんの事、ゆくゆくは足立区における荒川の氾濫を減らすことが出来るのであれば、荒川上流の森林の整備にも活用することを検討すべきだと考えるが、区の見解を伺う。 ③令和2年度に完成した第三次緑の基本計画により、区民へ緑の理解度を高めてもらうとともに今後10年間にわたる足立区の緑に対する基本計画を提示できたのではないかと考える。そこで、緑から環境への意識を持ってもらうためにも来年度に策定予定の第三次環境基本計画の中間見直しに向けて、緑の基本計画の内容も盛り込み、整合性をとっていくべきだと考えるが区の見解を伺う。